

藤原宮第21－1次調査

(昭和52年4月～昭和52年5月)

この調査は農業用倉庫建設に伴う事前調査として実施した。調査地は藤原宮大極殿跡の東方 400 *m* の水田で、藤原宮官衙及び藤原京坊計画線の遺構の存在が予想されていたところである。調査の結果、南北・東西道路と掘立柱建物を検出した。

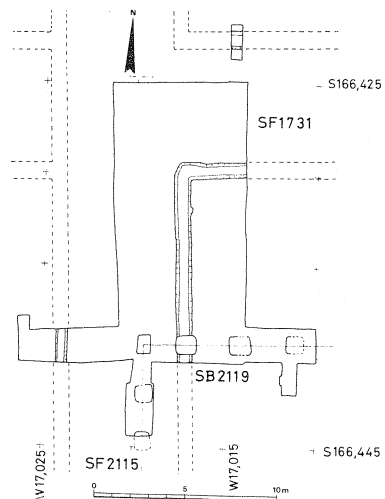
発掘地の土層は、上から耕土 (17 *cm*)、床土 (15 *cm*) で、その下は直接青灰色砂質土の地山になるところと、地山とその間に暗褐色砂質土 (15 *cm*) のある部分とがある。東西・南北の道路は、それぞれの側溝を地山面で検出した。

南北道路の S F 2115 は側溝心線で 6.7 *m*、東西道路 S F 1731 は側溝心線 7.2 *m* をはかる。側溝は両道路交差点東南では、路面を横断することなく鉤の手をなしている。側溝はいずれも素掘りで、溝内に暗紫色粘質土が堆積していた。これらの側溝内には水の流れた形跡が顕著でない。

掘立柱建物 S B 2119 は南北道路東側溝を切ってつくられており、暗褐色砂質土面から検出された。掘形は一辺 1 *m* ほどあるが、西北の掘形はやや小さい。柱間は東西については西から 2.4 *m*、3.0 *m*、3.0 *m* で、南北は北から 2.7 *m*、2.7 *m* である。建物は西北隅部を検出したのみであったため東西棟、南北棟いずれになるかは不明である。なお建物でなく矩折れの塀になる可能性もある。

遺物は、道路側溝堆積土から 7 世紀後半の土器が出土し、S B 2119 の掘形埋土からは、熨斗瓦や陶製円面硯が出土している。

さて、上述の南北・東西道路は藤原京条坊の四条条間小路・東二坊坊間小路にあたる。



遺構実測図 (1 / 400)

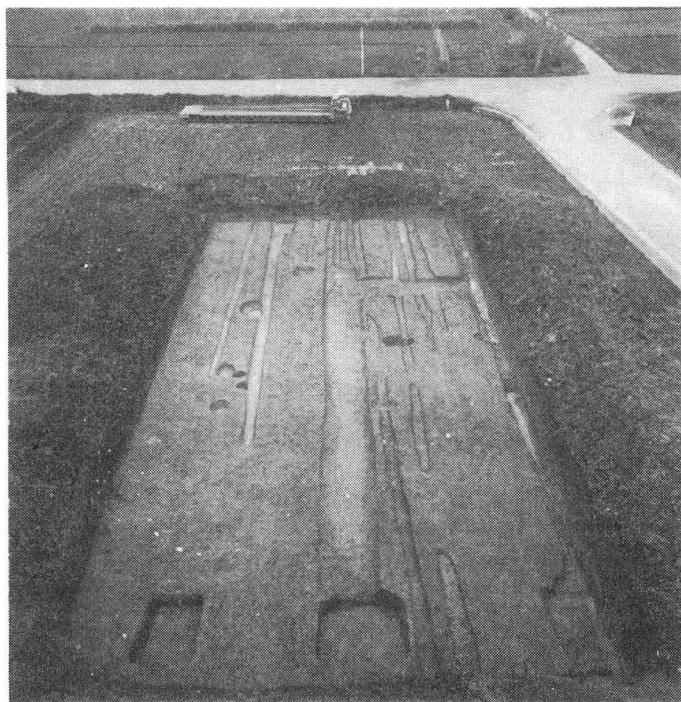
その交点の座標は以下の通りである。

$$X = -166,426.3$$

$$Y = -17,020.9$$

ところで、朱雀大路計画線 S F 1920(第20次調査)と東二坊坊間小路 S F 2115との路心間の距離は 405.3 m である。この距離は条坊制の 3 町に相当すると考えられ、これから 1 町の長さを求めると 135.1 m の値が得られる。西一坊坊間小路・四条条間小路交点(第16次調査)と朱雀大路・四条条間小路交点との距離(1 町)は 134.5 m であり、四条条間小路上における 1 町の長さは極めて近似した値をとることが判明した。また、西一坊坊間小路と東二坊坊間小路の間における四条条間小路の方位をみると、方眼方位に対して東で北へ約 39' 弱の振れを示し、宮北門心と宮南門心とを結んで得られる宮中軸線の振れ(26' 36'')に較べてやや大きい。

今回の調査によって、従来、宮西半部で知られていた宮造営に先行する条坊計画線(S F 1081・82他)が宮東半部においても存在することが初めて確認さ



れた。また、条坊計画路線を廃してつくられた掘立柱建物は、官衙遺構の一部とみて誤りないと思われる。これまで全く知られていなかった藤原宮東方官衙が、ほんの一部であるが発掘されたことの意義は大きい。

調査地全景(南から)